2　地理歴史・公民

学校番号	１０８

平成３１年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史Ａ	単位数	３単位	年次	2
使用教科書	日本史Ａ改訂版（山川出版）						
副教材等	最新日本史図初定表（第一学習社）　改訂版詳細日本史史料集成（第一学習社）						

1 担当者からのメッセージ（学習方法等）

・歴史を時間軸と空間（地理的条件）の視点でとらえる。
・歴史的事象に「なぜ」の視点を持つ。
・世界史のなかの一部としての日本の歴史という観点で、常に日本の歴史をとらえる。
・歴史的視野を持って、現代の日本社会の在り方を考える。

2 学習の到達目標

・諸資料に親しみ、歴史的思考力を培う。
・現代の諸課題を近現代史を中心とする歴史と結び付け歴史的観点から考察することができる。
・日本の歴史と世界史上の出来事とを関連付けながら理解し、国際社会を主体的に考え、行動する市民としての自覚と資質を養う。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	近現代史を中心とする歴史の課題に対して、関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たし、国際社会を主体的に生きようとする。	現代世界の諸課題を歴史的観点から考察し、国際社会を公正に判断して、その変化の過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。
評価方法	レポート・ノートやプリントの提出	定期考査	定期考査	定期考査
	〔主題学習〕 振り返りシート	〔主題学習〕 レポート 報告会での発表内容	〔主題学習〕 レポート	〔主題学習〕 内容のまとまり
	※「主題学習」とは主題を設定して行う学習活動で、適切な時間を確保して行う。			

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	開国と明治維新	・アジアの激動と日本の開国 ・江戸幕府の滅亡 ・明治維新 ・富国強兵 ・明治初期の外交 ・殖産興業と文明開化	○ ○ ○ ○	 ○ ○ 	 ○ ○ ○	○ ○ ○ 	a:ペリー来航から、戊辰戦争・維新政府の国家体制作りの時期の日本の歴史と世界の歴史のつながりに関わる主題（特に、英・仏・米・露との関係や朝鮮など近隣諸国殿関係）を意欲的に考察し、地理と歴史への関心を高めようとしたか。 b:ペリー来航・開国が日本の経済・社会に大変化を起こし、政治体制の変革までつながった過程を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現したか。 c:幕末の史料・統計グラフから、有用な情報を選択して読み取り、この時代の変化の動力源となったことがらと変化の過程を、読み取ることができたか。 d:日本の開国と欧米諸国や中国・朝鮮との関連を地理的条件や世界史と関連付けながら理解し、知識を身に付けたか。	レポート ノート・プリント提出 小テスト
	立憲国家の成立	・自由民権運動 ・立憲制の成立 ・立憲政治の展開 ・日清・日露戦争 ・産業革命と社会の変容 ・明治の文化 ・	○ ○ ○ 	○ ○ ○ 	 ○ ○ ○ ○	○ ○ ○	a:自由民権運動の持つ様々な側面・明治憲法の下での立憲政治の特質・日清・日露戦争の持つ世界史的意義・近世の日本と産業革命による近代化が図られた後の日本社会との相違点について関心を高め、意欲的に追究しようとしたか。 b:自由民権運動と諸外国の市民革命運動と比較し、その違いがどこに現れているか、何によるものかなどを、多面的・多角的に考察し、表現することができるか。 c:自由民権運動に始まった立憲制の成立が、日清・日露戦争の影響で変化してきた過程や、諸外国の文化が流れ込み、産業や人々の暮らしに起こされた変化を、諸史料を通じて読み取り、図表などで示すことができるか。 d:他国との交流が明治期の社会に与えた影響を多面的に考察し、基本的知識を身につけることができたか	定期考査 ノート・プリント提出 小テスト

2学期	第一次世界大戦と日本	・政党政治の展開 ・ワシントン体制 ・経済・社会の変容 ・市民文化	○	○	○ ○ ○	○ ○ ○	a:第一次護憲運動・第二次護憲運動をはじめとする民衆運動の盛り上がりと，大正期における政党政治の展開について理解しようとしたか。 b:列強の仲間入りを果たした日本をアメリカ中心の協調体制に組み込もうとしたアメリカや、大戦後の中国・朝鮮における民族運動の高まりなど、諸国民がどのような意図を持って行動したかに注目して理解できたか。 c:写真・統計資料等を見て、当時の社会・経済がどのような状態であり、またどのように変化していったのかをつかみ取り、図等にまとめることができるか。 d:政治の変化と大正デモクラシーとのつながりや、あらたな学問・芸術が生まれ、都市の発展などを背景に大衆文化が誕生したことを理解できたか。	授業態度 発問評価 小テスト ノート提出 定期考査
	昭和の恐慌と満州事変	・恐慌の時代 ・政党内閣期の内政と外交 ・軍部の台頭	○ ○	 ○ ○	○ ○ 	 ○ ○	a:国内的な第一次世界大戦以後の慢性的な不況と，国際的な世界恐慌による資本主義諸国の経済危機について把握し，日本および各国が，このような状況をどのように克服していったのかを理解しようとしたか。 b:社会主義運動の高まりと，これに対する徹底した弾圧の動きを，次第に緊迫する内外情勢と関連させて考察できたか。 c：恐慌に政党内閣がどう対応しようとし、それが外交や軍部の台頭に与えた影響を諸史料とつなぎ合わせて理解し、図表等にまとめることができたか。 d：天皇機関説問題や激しい弾圧による社会主義者の大量転向などを，国内の戦争反対勢力を一掃する動きとして理解できたか。	授業態度 発問評価 小テスト ノート提出 定期考査

	第二次世界大戦と日本	・日中戦争 ・重化学工業化と統制経済 ・第二次世界大戦と太平洋戦争	○	○	○ ○	○ ○	a:軍の一部によるクーデタ(二・二六事件)が鎮圧された後に，かえって軍部の政治介入が強まったのはなぜか，事件後の軍内部の勢力配置の変化に注目して考察しようとしたか。 b:太平洋戦争に至る過程と，国民生活の変化を関連づけて考察できたか。 c:政治・経済・国民生活の状況を表す写真・グラフ・文章等を読み取り、日中戦争から日本がアメリカとの戦争に踏みきるに至った流れや、その後の国民生活の変化を、経済的背景を含め，総合的に考察し、表現することができたか。 d:国民生活と国際情勢の深い関わりを理解し，歴史的な見方や考え方を育てることができたか。	
3学期	占領下の日本	・占領と改革 ・冷戦の開始と講和	○	○	○	○	a:労働三法・教育基本法の制定などを取り上げ，五大改革をはじめとする改革がＧＨＱの指導で始まったことにより現在も残っているわが国の課題と関連づけて考察しようとしたか。 ｂ：女性参政権が認められ，政党政治が復活する中，主権在民・平和主義・基本的人権の尊重の３原則を中心とする日本国憲法が制定された経緯と意味を，国民生活の状況も踏まえて考察できたか。 ｃ：中華人民共和国の成立，朝鮮戦争の勃発，経済安定九原則，警察予備隊の新設などを諸史料を通じて理解し、占領政策の転換という文脈でまとめ、表現することができたか。 ｄ：国際的な冷戦のはじまりと，日本に対する占領政策の転換からサンフランシスコ平和条約の締結に至る経緯と背景について，理解できたか。	授業態度 発問評価 小テスト ノート提出 定期考査

	経済繁栄と保守長期政権	・55 年体制 ・高度経済成長期の経済と社会	○	○	○	○	a:保守合同による自由民主党の成立から経済成長を背景とした安定した保守政権の誕生に至るまでを，外交・政治・経済を踏まえて多面的・多角的に考察しようとしたか。 b:ＭＳＡ協定・新安保条約・日ソ共同宣言・日韓基本条約・ＬＴ貿易など，外交・政治の再編過程を把握できたか。 c:産業構造の高度化、その後のドル=ショックや石油危機によるマイナス成長に対する政府の行財政改革について，当時の諸史料を読み取って考察し、表現できたか。 d:経済の発展と、消費の拡大・核家族化・都市化・マスメディアの発達・農村の過疎化・公害問題などと対比し関連づけて、多面的に理解することができたか。	
	現代の世界と日本	・冷戦の終結と日本 ・日本社会の変容 〔主題学習〕 ・課題の設定 ・調査方法 ・資料収集 ・成果報告	○	 ○	 ○	○ ○	a:冷戦終結後の東欧革命，55 年体制が崩壊した政治状況，バブル経済から平成不況へと進んだ経済状況などを意欲的に知ろうとしたか。 b:原子力に対する安全性，国連平和維持活動への対応，経済不況に対する国内改革など，具体的な例をもとに理解することができたか。 c:史料を通し、戦後日本農業の変遷を国民経済・国際経済との関わりの中で大づかみに捉えるとともに，問題の解決方法を探り、図表等で表現できたか。 d:世界の動きと日本の動きの関連を把握し、現代社会の成り立ちに対する理解を深め、今後の課題に対する考察を深めたか。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:資料活用の技能　　d:知識・理解

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。